



身近な問題から国際問題まで、生活環境の相違をベースに考察していく

[生活環境経済学科]の
教授 & 学生による

誌上TALK

小池 隆生 教授 × 3年 加藤 菜奈 さん

小池 暮らしが、経済・社会・世界とつながっていることに気づくでしょう

新しい「ものの捉え方」や「見方」を学んでいく

小池 加藤さんは生活環境経済学科でどのようなことを学んでいますか？

加藤 この学科では、生活環境の変化を経済学の視点から紐解いていきます。自然環境、賃金の格差、福祉システム、ジェンダー問題など、私たちの「生活の質」を左右するテーマに沿って課題発見力や解決策を模索する力を身につけ、専門的な学びを深めることができると思います。

小池 そうですね。「ものの捉え方」や「見方」を経済学の力

を借りて獲得していくのが生活環境経済学科での学びです。私たちの生活と環境という二つの言葉で成り立つ「生活環境」について、身近な暮らしを出発点とし、経済や社会、世界の成り立ちまで視野を広げ、それらが暮らしにどう影響しているのかを絶えず考えてほしいと思います。これからはどんなことを学んでいきたいですか？

加藤 私は介護問題に興味があります。現在少子化によって家庭内での介護という形も変化し、「老老介護」の問題も社会的に重要視されています。このような時代に、介護のあるべき姿とは何なのかを学んでいきたいです。

生活環境の変化を、経済学の視点から紐解いていきます

加藤

社会保障・福祉を学び、社会に貢献したい

小池 「介護」も私たちが生きていく中で必要となる「ケア」という人類がずっと続けてきた営みとしての側面から見れば、ケアの歴史や、ケアの思想という大きな文脈で捉えねばならない性格を持ち、同時に、現在の日本では「介護保険制度」のもと、在宅支援・ケアマネ等「ケア」を具体的な「介護」という形を通して、現実の問題として捉える必要があります。加藤さんは今の学びを将来にどうつなげたいですか？

加藤 社会保障や社会福祉の制度を学ぶことで課題を様々

な視点から探求する能力を身につけたいです。将来は学んだ知識を活かして、社会で暮らす誰もがその人らしい生き方を実現できるように貢献したいです。

小池 「生活環境経済」という実際の暮らしの具体的な現実と経済・社会を結びつけ、そのつながりを意識する学びを実践していくことで、日常生活の様々な場面が経済、社会、ひいては世界とつながっていることへの気づきが得られるでしょう。そのような学習体験を経て、本当の意味での学びの「面白さ」というものを知ることができると思います。これから大いに期待しています。